

心・技・体

今回は元音楽教師の河本浩子先生にお話を伺いました。河本先生は音楽の町を標榜する松伏町の創生の頃から携わり現在に至っております。きっかけは、88年開催のさいたま博覧会（熊谷市）です。県内94市町村歌の中で松伏の歌を披露することとなり、松伏町最初の合唱団フローラ松伏を19名で急遽結成しました。これにより松伏町で音楽との関わりが強くなりました。

◆音楽を始めたきっかけは何でしょうか

岡山県で大学進学に当たり、専攻を迷っていたが自己流で弾いていたピアノが好きで教育学部の作曲科に入学したことです。大学卒業後に音楽の教師となり、夫の埼玉異動に伴い、一緒に旧庄和町の中学校赴任を経て、松伏町立松伏中学の音楽教師になりました。



◆松伏町の音楽との関わりは？

松伏第二中学校への赴任と先に述べたさいたま博覧会への参加、田園ホール・エローラの竣工が重なって松伏の音楽に関わる機会が増え、深くなりました。

二中は創立早々でもあり、校歌制定で曲付けを担当させてもらいました。歌詞は公募です。作曲科卒業でしたが簡単ではありませんでした。その時、作曲家の山田耕作先生を思い出し、**旋律線を大事**にし、歌詞を何度も読み返し、言葉のリズムとアクセントを重点に作曲しました。今でも生徒たちは歌いやすい校歌だと言ってくれています。

さいたま博覧会では、コンクール形式で町の歌ともう1曲歌いました。急遽編成した素人的な合唱団でしたが、ソコソコの成績を得ることが出来ました。博覧会終了後も合唱団フローラは存続し、指揮と指導を続けました。

エローラ竣工の記念式典では、ピアノで「君が代」を演奏しました。ベーゼンドルファーを弾く機会を与えられ嬉しくてたまりませんでした。それも最初の奏者でした。

その後、**音楽によるまちづくり**が町の方針であり、アンサンブルオーケストラ・エローラを町が立ち上げ、またエローラで東京フィルハーモニーとコラボすることもできました。東京フィルハーモニーはプロ集団で指導も厳しいものでした。適格かつ優しく、さすがプロと感心させられました。とっても楽しい時間でした。そのメンバーとは今もお付き合いが続いています。

◆今後やりたい事は？

自分で歌いたい歌を心で歌う、これが楽しみです。また、ボランティアで統合失調症の方の支援、趣味のヘルシークッキングやお琴サークルを続けることです。健康でなければできません。

本日、先生に色々伺いましたがこれからも「みんなで歌おう」は安泰と実感させられました。
(佐藤 伸一、齊藤 美智子 記)